

ベトナム・ハノイ市農村部における
環境保全米の生産・管理能力強化計画
(JICA草の根協力支援型提案事業 (応募中))

東京大学大学院新領域創成科学研究科
国際協力学専攻 農業環境学研究室 博士課程
井上 果子

J-SRI研究会

2011年5月27日 (金)

事業背景

農薬・化学肥料の過剰使用や不適切な使用

(農薬は1990年から15年で約15倍、ha当たり施肥量は約3倍。)

食の安全問題、環境汚染、土壌劣化

例：残農薬に起因する食中毒7000件以上(2002年)



安全・安心な食品
がなかなか入手で
きない。

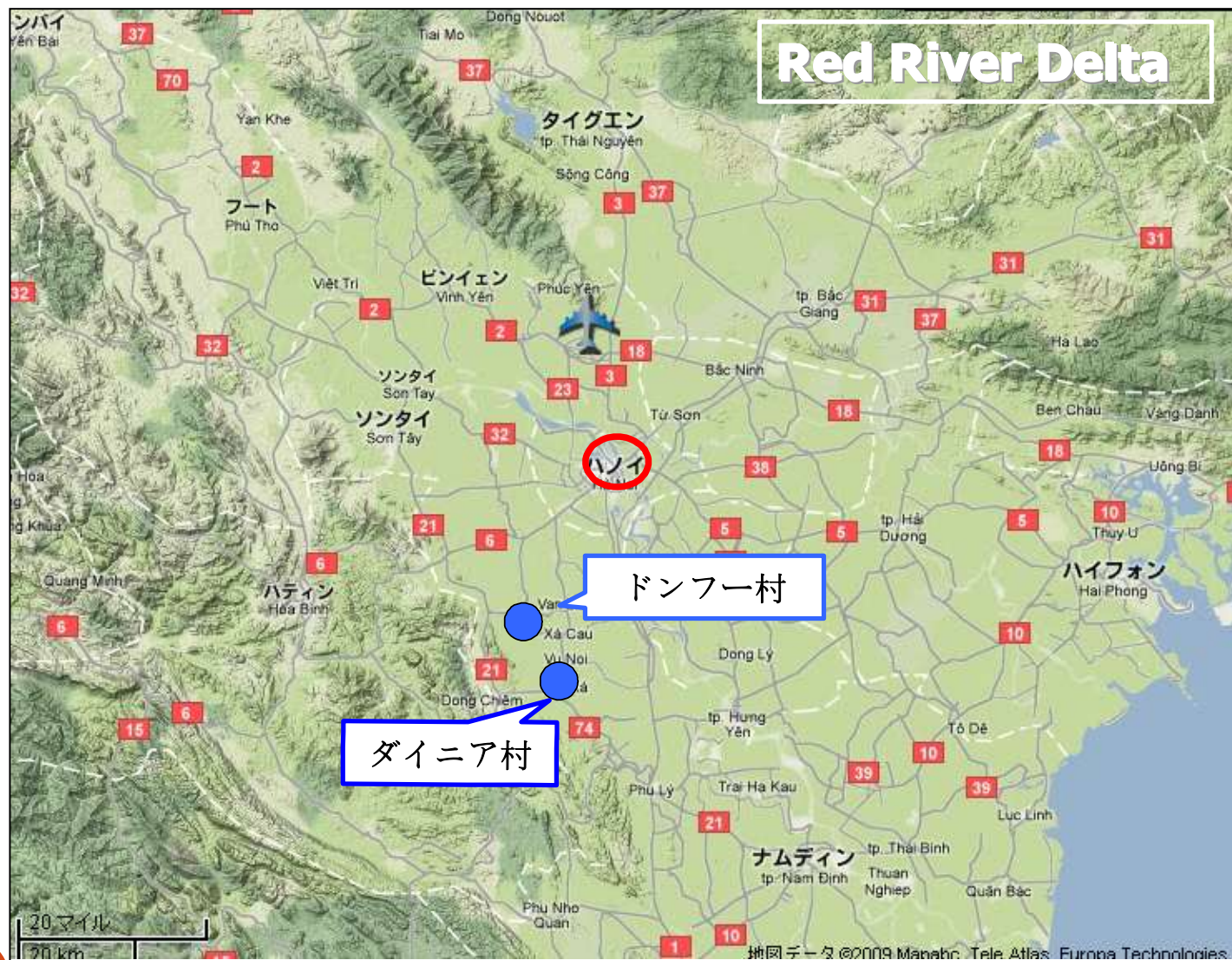


質より量。良い
もの作っても差
別化できない。



SRI と差別化努力で一石を投じよう！

事業対象地



Dai Nghia村

SRI経緯・現状

2006年第2期SRI導入(4ha)
→2007年1期(15ha)→2期(50ha)
→2008年1期以降(全180ha)

活動

課題1への対応：
パイロット農地でその土地
にあった低投入SRI農法を
農民に指導（有機SRI米）

課題2の対応：
低投入SRI農法を適用する
農民と農地について工程
管理体制を構築し
工程管理を行う(OJT)

認証取得のための
申請

高付加価値米として
マーケティング

2年後

適正な低投入（有機）
SRI農法技術の習得

着実な生産・工程管理
実施体制・能力の習得

- ・生産性を下げずにコストを削減することによる収益増
- ・高付加価値米に対する社会からの信頼→ブランド化(安定した高価格)
- ・低投入による環境保全機能の強化→健康で安全な地域社会の形成+食の安全

地域農民の生計向上+
持続的な地域農業環境へ

しかし・・・
2つの課題

稲作工程を証明するものがない。稲作工程を
監理していない。

徐々に独自のSRI農法を
修正

課題1

現地の状況にあった
適正な低投入SRI・
有機米を安定して生産
するための技術力不足

- ・生産性↓
- ・質確保が困難

課題2

農民による
環境保全努力が
経済・社会的に
評価され得ない

- ・徐々に肥料・農薬の投入↑
- ・環境保全努力のインセンティブ

稲作活動からの収益や地域農業環境
保全が十分に確保されていない。

写真でダイニアを紹介

- 適正低投入SRIが必要
- 有機SRI
- 家計簿プロジェクト

Dong Phu村

SRI経緯・現状

2007年第1・2期SRI導入(1ha/30世帯)

→徐々に村内の南へ技術が普及

→2010年現在、DP村北部でVietGAP取得(100%SRI:トップダウン型)、隣接する村は30-70%SRI農法導入、最南端は0%

活動

課題1への対応：
Non-SRI農地でその土地にあった低投入SRI農法を農民に指導

課題2への対応：
低投入SRI農法を適用する農民と農地について工程管理体制を構築し工程管理を行う(OJT)

規定にそった工程管理実施

高付加価値米としてマーケティング

2年後

適正な低投入SRI農法技術の習得

着実な生産・工程管理実施体制・能力の習得

・生産性を下げずにコストを削減することによる収益増

・高付加価値米に対する社会からの信頼→ブランド化(安定した高価格)

・低投入による環境保全機能の強化→健康で安全な地域社会の形成+食の安全

地域農民の生計向上+持続的な地域農業環境へ

しかし・・・
2つの課題

北部:徐々に投入量を変更(VIETGAP)

課題2
十分な監理がなされず、農民によっては規定を逸脱

・徐々に肥料・農薬の投入↑
・社会的信用を低下させる恐れ。

南部:農民が独自にSRI農法を展開

課題1
現地の状況にあった適正な低投入SRIがなされていない

・生産性増加率↓
・投入量が多くなり、コスト↑

稲作活動からの収益性が十分に確保されない。社会的信用を得る基盤が脆弱。

写真でドンフーを紹介

- SRI
- ハノイ市認定高付加価値作物栽培指定村
- とりあえず野菜VietGAPをコメにも適用？

事業内容

SRIをもっと適正に！

工程管理・トレーサビリティ導入で認証をとろう！

事業目的

上位目標

農家の生計及び地域農業環境の向上

事業目標

低投入SRIによる高付加価値環境保全
米の生産及び管理能力の向上

期待される事業成果

- ①農家が低投入SRIの技術を適切に習得
- ②農業お生産工程管理体制(トレーサビリティ確保体制)の構築

具体的活動

- 技術移転
 - ファーマー・フィールド・スクール(FFS)で低投入SRIと有機SRIを農業組合メンバー(コアファーマー)と農家に技術移転。
- トレーサビリティ体制構築
 - 消費者ニーズ・販路調査
 - 工程管理・記録トレーニング
 - 認証申請
 - HP設立+SRIによるコメのPR

実施体制

日本側体制

東京大学大学院新領域創成科学研究科
国際協力学専攻農業環境学研究室(*)

プロジェクト・マネージャー：山路永司教授
現地調整員・工程管理：井上果子
SRI農法による水田管理：脇本有希
消費者ニーズ分析：佐藤壮夫
土壌・水質評価：谷津 祥太郎

越側実施体制

ハノイ農業大学(HUA)

ローカルマネージャー：Pham Thi My Dung
副マネージャー：Dr. Pham Tien Dung
有機作物センター（技術移転）
商学部チーム（マーケティング）



技術移転、普及、モニタリング活動

対象地域

ダイニア農業協同組合

低投入SRIモデル
農家グループ

工程管理

マーケティング

ドンフー農業協同組合

低投入SRIモデル
農家グループ

工程管理

マーケティング

事業期間（JICA事業：2年）

2010～2012

- ・ 東京大学からハノイ農業大学へノウハウ移転
- ・ 東京大学主導・ハノイ農業大学共同による技術移転
- ・ 農業組合コアメンバートレーニング

2013～2014

- ・ ハノイ農業大学主導・農業大学主導による技術移転（東京大学による品質管理）
- ・ 農業組合コアメンバーによる自主モニタリング（ハノイ農業大学による品質管理）

2015年～

- ・ 農業組合コアメンバーによる技術移転・モニタリング・自主販売

事業のためにお知恵を . . .

- 水質・土壌検査機器
 - 認証取得のためには、灌漑用水、土壌の測定が必要。
 - 事業目標の達成度を測るためには、地域農業環境の保全度を測る必要有。
- 食味検？
 - マーケティングのためにも、味を表現する方法は？
- 認証
 - 現在、ベトナムでは輸出用作物に対して主に企業が国際的に信用された認証(Global GAP)を得ている。
 - ベトナムでは、果物・野菜・茶に対するVietGAPはすでに運用中。コメに対するVietGAPについて、準備中。
- その他